

女子聖学院の人間教育は毎朝の“礼拝”を基盤としています。この“日々の礼拝”を通して、生徒達に各自の“自己理解”を促してまいります。毎朝毎朝、生徒に“自尊感情を高める肯定的なストローク”がなされることにより、生徒の内面に日々“自己肯定感”がじわじわと醸成されてまいります。

この基盤の上に、学校生活の中での“実地体験”を通して、生徒が“自己効力感”(自分に対する信頼感、自分は物事に十分に働きかけていくことができるという感覚)、“達成感”、これらを得ることができるように働きかけていきます。

この“実地体験”とは、後期のクラス対抗の合唱コンクール、前期の高校の学年対抗(中学生は高校の学年のいずれかに加勢する形をとっています)の運動会、その他の行事、日々のクラブ活動、そして日々のすべての学校生活の中で得られるものです。

“実地体験”の中で、出会った課題と真っ直ぐ取り組むことにより、苦勞したことや失敗したことも含めて、生徒一人ひとりには「体験したすべてが自分の確かな力になっている」「自分も頑張れることがわかった」「自分も皆のために貢献することができた」「部分的であっても目標が達成できた」と、“自己効力感”を深く味わうこととなります。

そして、その実地体験の場には、常に生徒を見守っている教師が控えております。その教師から働きかける日々の対話と支え(サポート)があります。

このようにして、“自分を活かす力”が一人ひとりの生徒に育ってまいります。

一方、この女子聖学院におけるこのプロセスは、“人とつながる力”が一人ひとりの生徒に育っていく過程でもあります。キリスト教学校である女子聖学院は、「“自己理解”を深めること、それが“他者理解”を深めることにつながっている。自分の賜物を他者のために用いることが、本当に自分を活かすことにつながる。自分がより良く生きることと、他者と共により良く生きることが深くつながっている」、このことを、全教育を通して生徒に伝えようとしているからです。

“礼拝”では、他者を理解することをも促します。そして、他者を尊重する感性・志をも高めてまいります。

また“実地体験”を通して、生徒どうしの間には固い絆が力強く結ばれていきます。クラス・学年という“横のつながり”・“先輩後輩の間の縦のつながり”が創られていきます。

クラス・学年・クラブ等の集団が一つ一つ丁寧に形づくられていく中で、生徒一人一人に確かな“居場所”が学校の中で確保されると同時に、“人とつながる力”が備わってまいります。

“自分を活かす力”と、“人とつながる力”とが分かち難く結びついて育っていく、そのようにして、“社会で求められる総合的な力”が一人一人の生徒の中に育まれていく、それが女子聖学院の人間教育です。